

大塚文庫とメンガー文献 Otsuka Library and some Menger's Literatures

石井 健
ISHII Takeshi

昨年（2002年）は社会思想家大塚金之助の生誕110年、没後25年に当たる。かつて大塚が解放思想史上の重要な人物たちを論じる際に、その生没の記念日をきっかけとしたように、ここでは当の大塚自身をその記念すべき年にちなんでいささか取り上げてみたい。

話題は、これまた昨年が大塚に深い関わりのある出来事の記念の年に当たることと直接間接関係している。その出来事とは、いまから80年前の1922年、オーストリア学派経済学の創始者カール・メンガーの経済学大文庫を東京商科大学（当時）が購入したことである。この購入交渉に大塚が大きな役割を果たしたことはすでに人口に膾炙した話である。

ところが、メンガー文庫購入後、大塚がメンガー夫人や息子のK・メンガーからC・メンガーの著作7点（中には出版されたばかりの『国民経済学原理』第二版を含む）を寄贈され、それが現在一橋大学にある大塚文庫の一部となっていることはほとんど知られていない。

発見のいきさつはこうである。よく知られているように、大塚は自分の蔵書の目録カードを作成していた。このカードには（そして文献自身にも）時期によってそれぞれの文献を入手した先や日付が記入されている。これをつぶさに見たところ、そのなかに“Frau Menger yori”とタイプされたカード6点と、“K. Menger shi kara”とタイプされたカード1点を発見した、というわけである*¹。

そこで、その書誌を復元してみよう。

メンガー夫人らから寄贈された文献は以下の通りである。（コロンの次は、一橋大学附属図書館の請求記号。角がっこの中は大塚自身が与えた整理記号）

① メンガー夫人より（1923年2月14日分）

1. Contribution a la théorie du capital (Paris: L. Larose et Forcel, [1888]). 20p.: Otsuka M383 [S men 2138]

2. On the origin of money ([London]: [Macmillan & Co.], [1892]), pp. [239]-255: [S men 2137]
現在の所在は不明である。

3. Der Übergang zur Goldwährung: Untersuchungen über die Wertprobleme der Österreichisch-Ungarischen Valutareform (Wien und Leipzig: Wilhelm Braumüller, 1892). 36p.: Otsuka M391 [S

*¹ ちなみに、彼の目録カード作成の習慣は留学時代に始まるもののようで、その初期のものはニューヨークにいた頃に作られている。もっとも古い日付のものは1919年6月17日付のJohn Locke, *Consequences of the lowering of interest and raising the value of money* (London, [18--?]) [Otsuka L418] である。ただし、文献自体には1919年6月12日と記されている。

men 2142]

最終頁の余白に、鉛筆による書き入れがあり、メンガーの手によるものではないかと推測される。

4. Die Valutaregulierung in Oesterreich-Ungarn (Abdruck aus den Jahrbüchern für Nationalökonomie und Statistik, dritte Folge, vierter Band, 1892) (Jena: Verlag von Gustav Fischer, [1892]). pp.39-55: Otsuka M393 [S men 2139]

5. Das Goldagio und der heutige Stand der Valutareform (Prag: K. u. T. Hofbuchdruckerei u. Haase, 1893). 32p.: Otsuka M385 [S men 2141]

6. Eugen v. Böhm-Bawerk (Wien: Aus der k. k. Hof- und Staatsdruckerei, 1915). 19p.: Otsuka M384 [S men 2140]

大塚の手によるアンダーライン (赤鉛筆) がある。末尾余白に、鉛筆による「Oct9, 1924」の書き入れがあり、おそらく読了日であろう。

② K・メンガー氏より (1923年7月5日分)

7. Grundsätze der Volkswirtschaftslehre. Zweite Auflage (Wien: Hölder-Pichler-Tempsky A.-G.; Leipzig: G. Freytag G.M.B.H., 1923). xxvi, 335p.: Otsuka M387 [S men 2365]

“UBERREICHT VOM HERAUSGEBER” (編者からの献呈) と印字された紙片がタイトルページに貼付されている。また巻末には、1923年7月14日付の Neue Freie Presse 紙に掲載された Richard Schüller による第二版の書評 “Karl Mengers Grundsätze der Volkswirtschaftslehre” の切り抜きが貼付されている。

第5章価値論から第7章価格論まで、大塚によるマージナルノート (ペン) とアンダーライン (赤鉛筆) がびっしりと書き入れられている。

1～6の文献は、いずれもメンガー文庫の中に1部以上含まれている。論文の抜き刷りであるから、著者の元に複数部あったとしてもおかしくはない。となると、これらはかつては「メンガー文庫」の一部であったかも知れない。

大塚文庫とメンガー文庫、何とも不思議な縁で結ばれた蔵書たちである。

(一橋大学社会科学古典資料センター助手)